

# 特性を持った子ども の支援について ～OTの視点や経験から～

---

地域連携講座

光の家療育センター 作業療法士

竹中 睦

# 目次

1. はじめに
2. 特性のある子どもと発達障害に関する知識のおさらい
3. 具体的支援
4. ライフステージの視点から見た支援のキーワード
5. まとめ

# 作業療法って何？



理学療法士  
(Physical Therapist)

「起きる」「歩く」「立つ」など基本的な運動機能に関わる専門職。呼吸など生命維持機能に関する治療・訓練も担う。



作業療法士  
(Occupational Therapist)

食事、排泄、更衣などの日常生活動作、余暇、職業などの目的的动作の獲得。精神・認知などの心身機能の訓練、環境の調整などを行う。



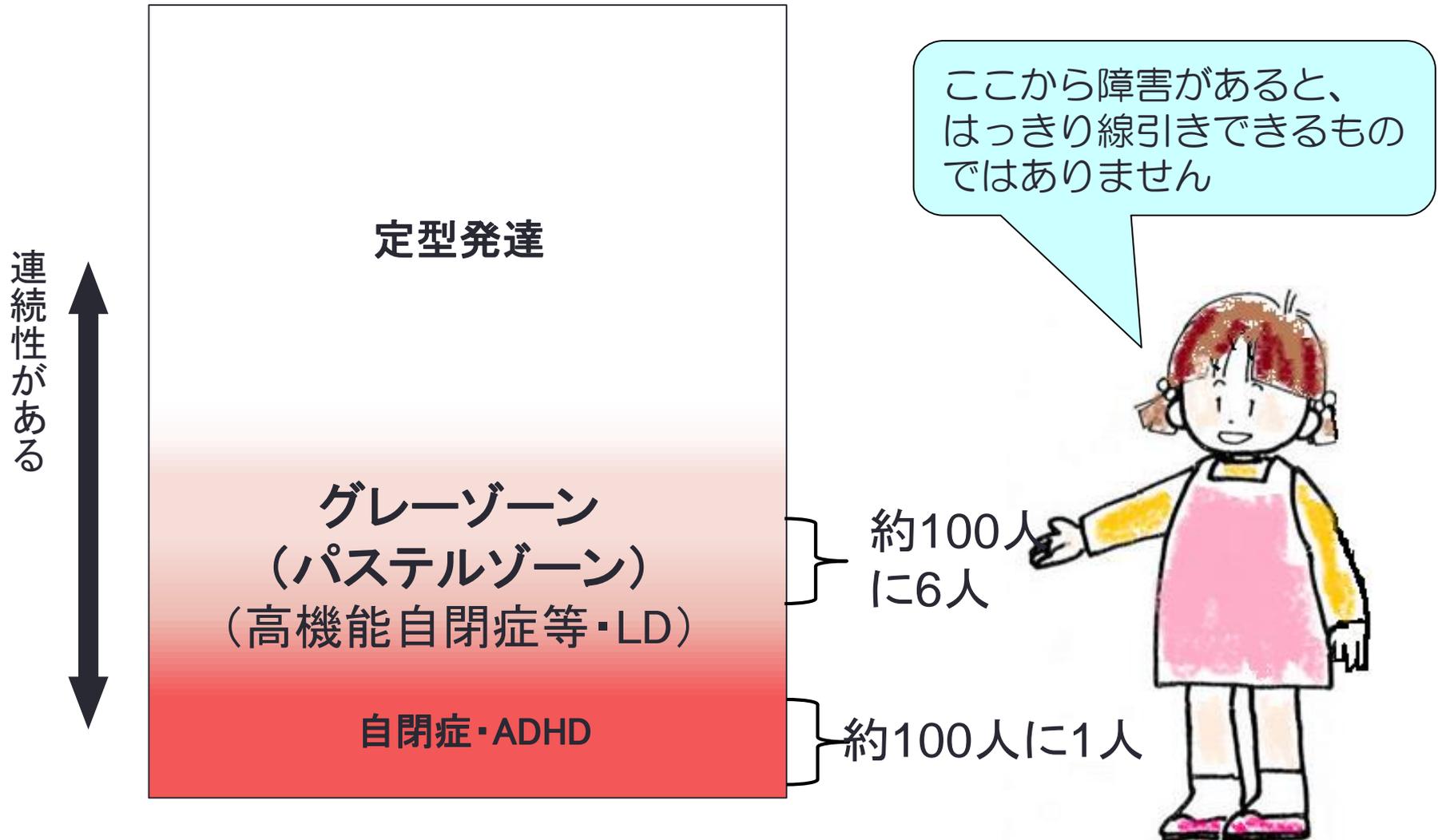
言語聴覚士  
(Speech-Language-Hearing Therapist)

主に「話す」「聞く」「読む」「書く」などのコミュニケーションに関わる障害、摂食機能などの訓練を行う。

# 目次

1. はじめに
2. **特性のある子どもと発達障害に関する知識のおさらい**
3. 具体的支援
4. ライフステージの視点から見た支援のキーワード
5. まとめ

# 障害と「定型」に境界はあるか



発達障害(特性) + 不適応 = 障害

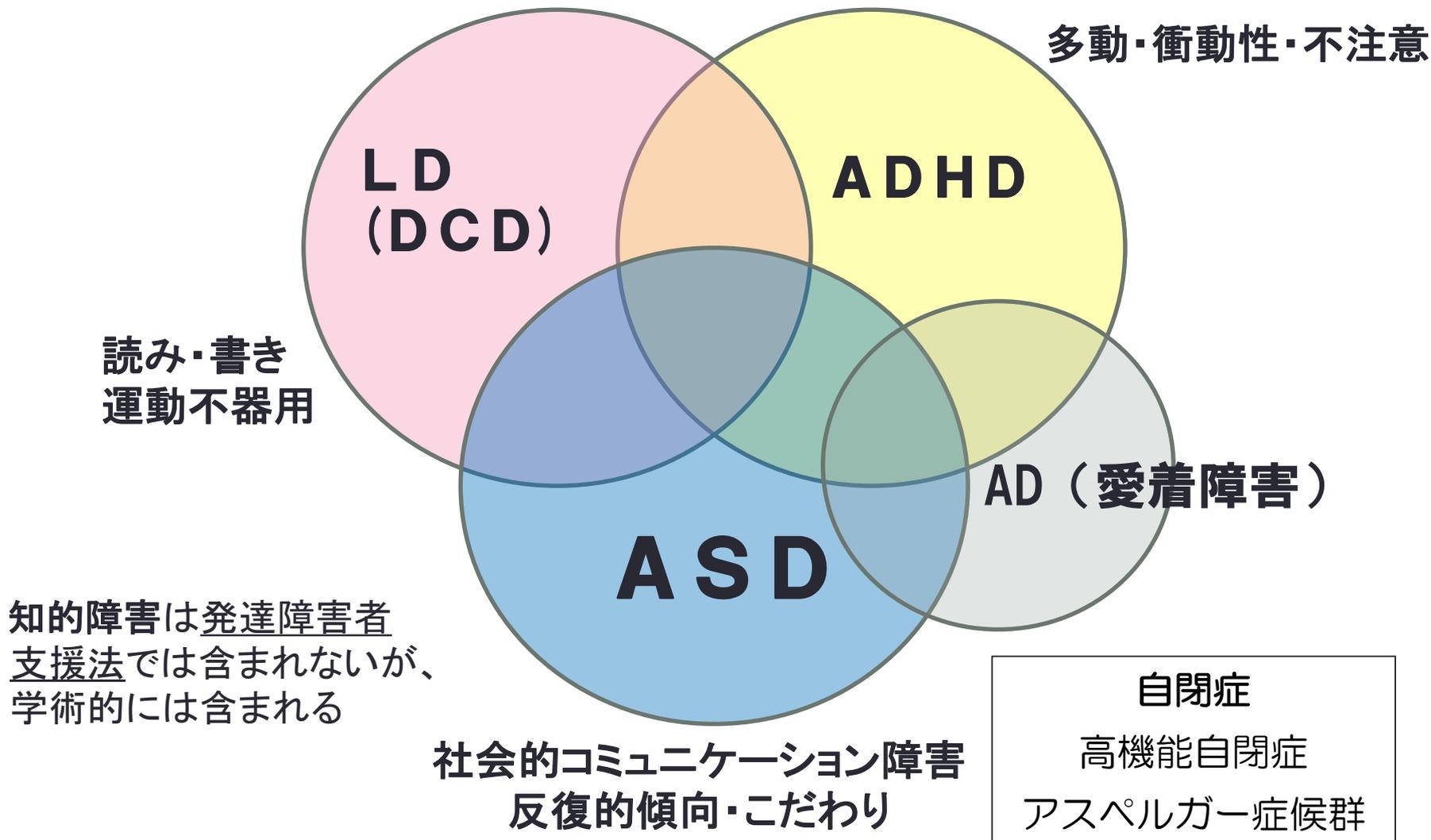
発達障害(特性) + 適応 = 個性

日常生活での支障や不都合(不適応)

が生じているかどうかで

「障害」にもなり「個性」にもなる

# 発達障害は独立してあるのではなく、 同時に起こりやすい



# 自閉スペクトラム症(ASD)の 四つの特徴

社会性の障害

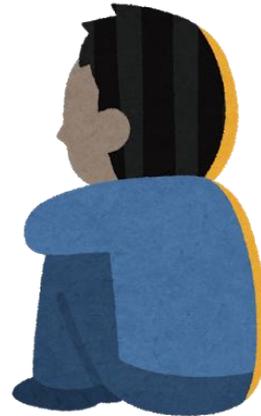
言語・  
コミュニケーション障害

想像力の障害と  
特異的な行動や  
こだわり

感覚の障害  
(偏り)

# ASDを持つ子どもの行動の例

人との関わりに無関心



生活上の問題

会話が困難



# ASDをもつ子ども(学童)の行動の例

悪気はないのに相手を怒らせてしまう

抽象的なことがわからない



相手の気持ちを  
考えられない



一方的にしゃべるなど会話に困難



# 感覚の過敏

## ●重力不安



## ●視覚過敏



まぶしいよ

## ●触覚過敏



触られると  
イライラしちゃう

## ●聴覚過敏



うるさいよ～

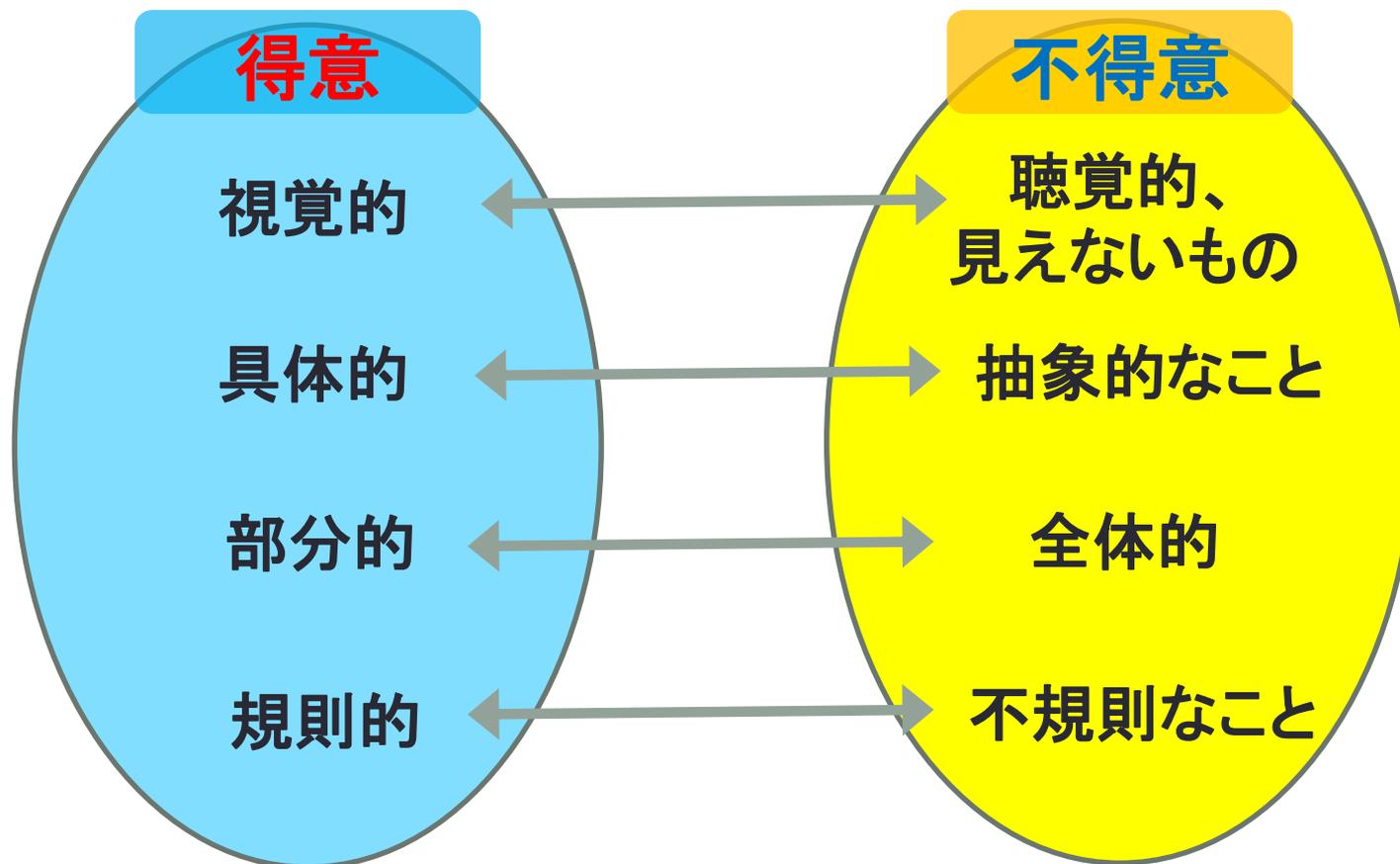
## ●嗅覚過敏



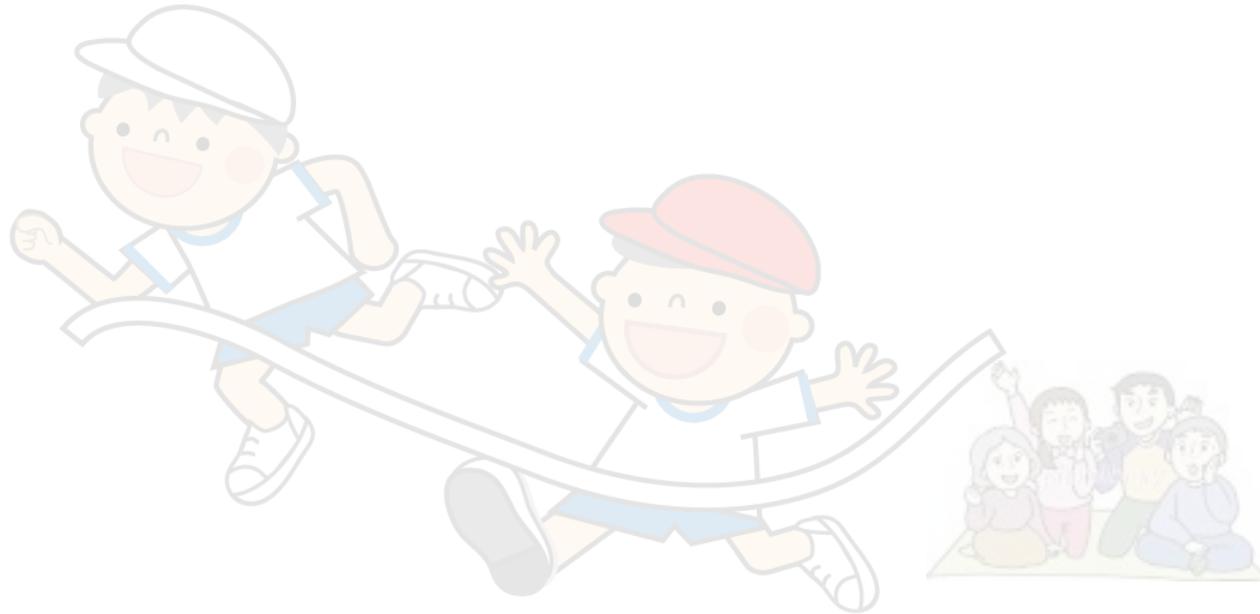
この臭い耐え  
られないよ～

# 自閉スペクトラム症をもつ 子どもの認知特性

見え方・感じ方に強い特性がある



# 部分的 ↔ 全体的



# 注意欠如多動症(ADHD)の 3つの特徴

不注意

記憶すること、  
しておくこと  
が苦手

多動性

わかっているのに、できない  
セルフコントロールが  
むずかしい。

衝動性

## 多動性

落ち着いて座っていることが難しい



遊びやレジャー活動におとなしく参加することが難しい



## 衝動性

質問が終わらないうちに出し抜  
けに答えてしまう



欲しい物があると激しくダダをこね  
てしまう



# 不注意

勉強などで不注意な間違いをする



興味のあることには集中しすぎてしまい切り替えが難しい



必要なものをなくしてしまう、忘れっぽい



課題や活動を順序だてて行うことが難しい



# 大人の症状

## 多動性

貧乏ゆすりなど、目的のない動き



落ち着かない感じ



## 衝動性

思ったことをすぐに口にしてしまう



衝動買いをしてしまう



## 不注意

仕事などでケアレスミスをする



忘れ物、なくし物が多い



時間管理が苦手



仕事や作業を順序だてて行うことが苦手



## 限局性学習症（LD）とは

- 教科学習に大きなつまずきがある（2学年以上の遅れ）
- 読み書きができない（読字障害・書字障害）
- 計算ができない（算数障害）
- 脳の機能障害が推定される（原因不明）

学習障害とは知的な遅れのない学習困難

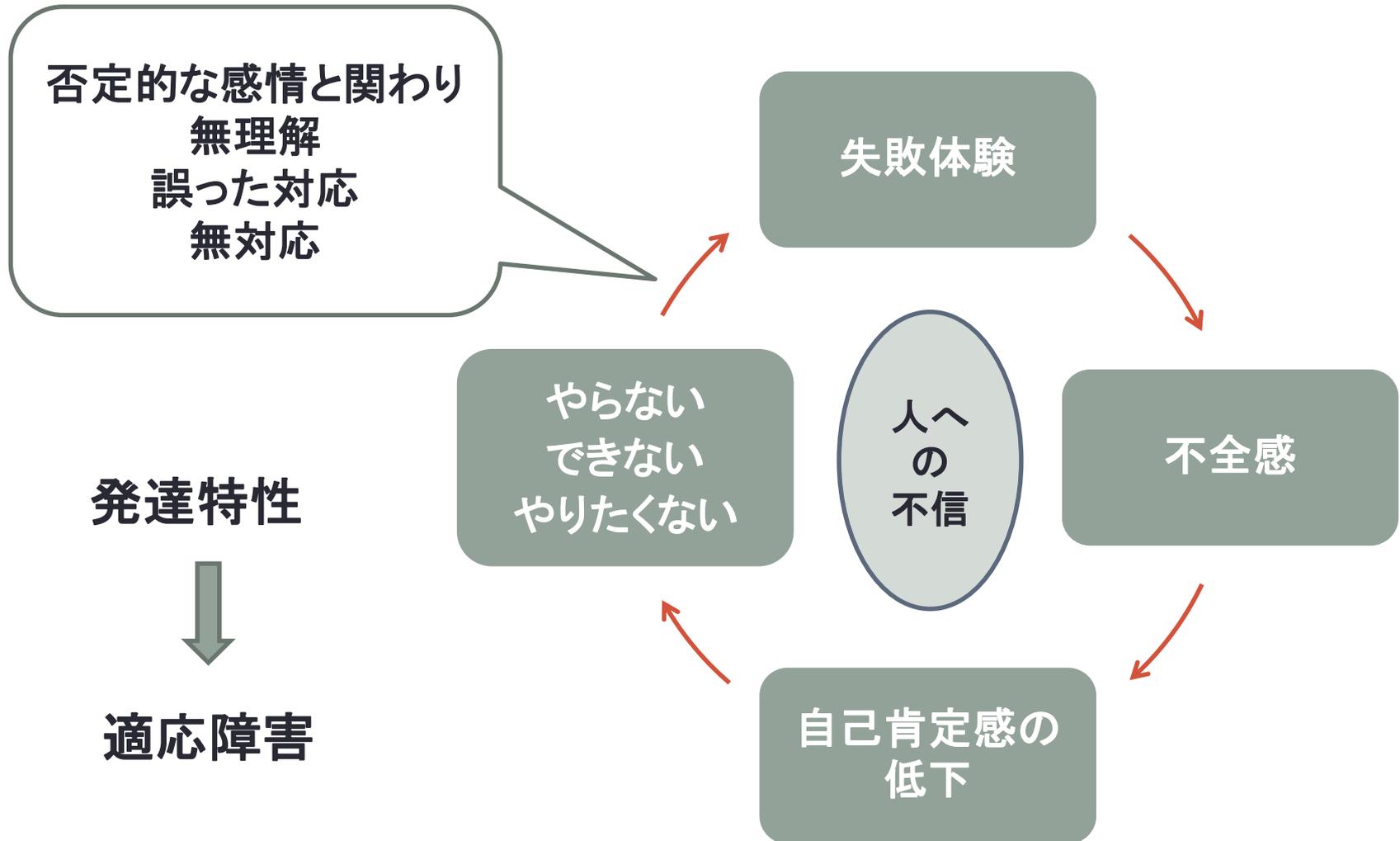
# 限局性学習症の特徴的な症状

- 教科書を読んでも、内容が理解できない
- 音読困難、逐語読み(拾い読み)、勝手読み、促音、撥音、拗音などが読めない etc
- 鏡文字、書き順の間違い、バランスの悪い字、同音異字の混乱、「め」と「ぬ」・「わ」と「ね」などの間違い、画数の多い漢字の間違い、黒板の視写が困難 etc
- いつまでも指算。引き算でつまづく、文章題が苦手、目盛が読めない etc
- 他の子と比べて不器用。全身、目、指先の協調運動が困難

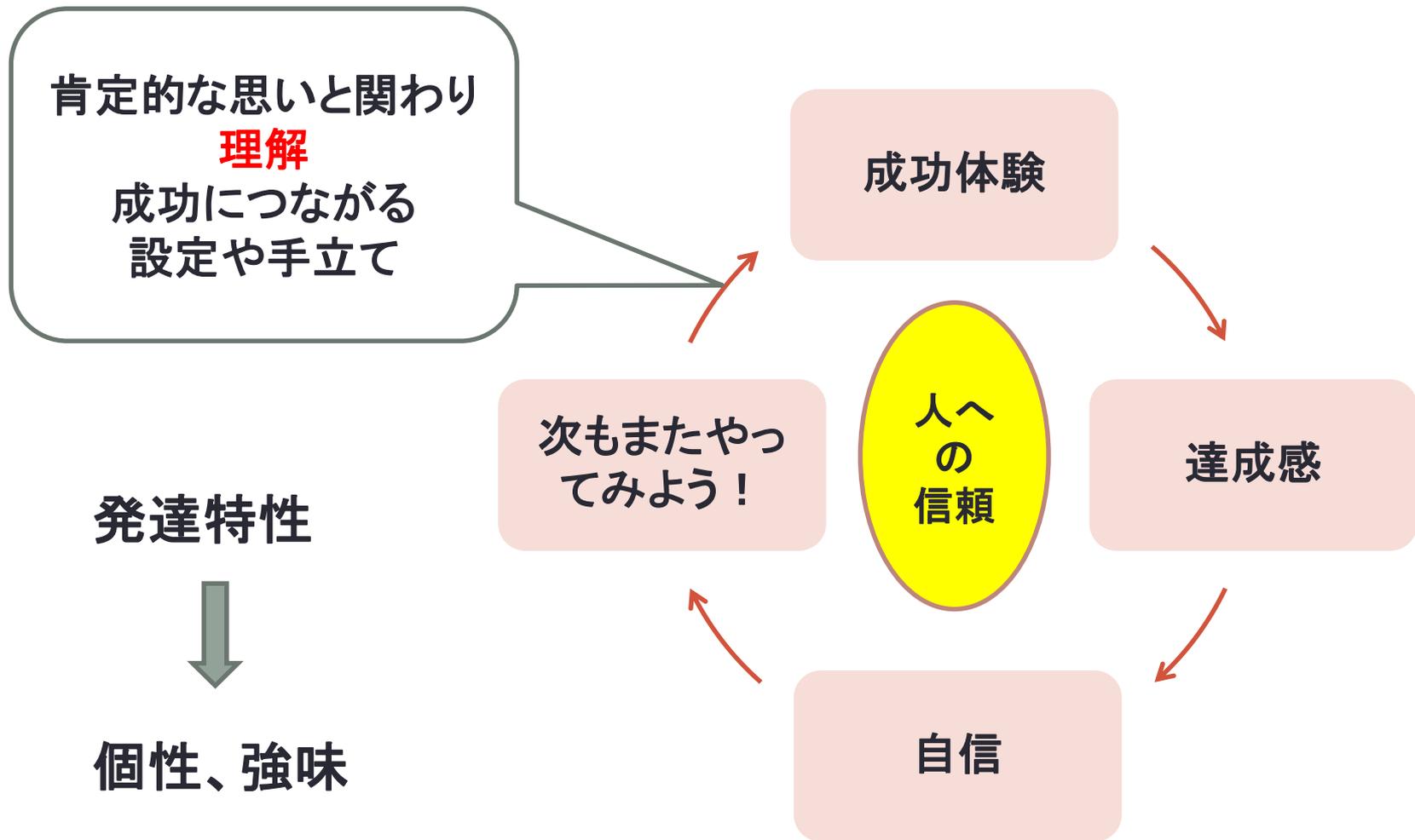
# 目次

1. はじめに
2. 特性のある子どもと発達障害に関する知識のおさらい
3. **具体的支援**
4. ライフステージの視点から見た支援のキーワード
5. まとめ

# 負の循環＝二次障害



# 正の循環＝子どもが育つ



# 理解＝問題の分析

## 「多動」という症状一つをとってみても・・・

- ADHD → 余分な刺激を無視できないのかも・・・  
動きたい衝動を抑えられないのかも・・・
- ASD → 感覚や刺激を求めているのかも・・・  
体が柔らかく姿勢を保持できないのかも・・・  
目の前のことに興味がわかないのかも・・・

異なる発達的特性から、多動になっている

- AD → 情緒のムラが大きく集中できないのかも・・・  
苦手や不安から逃げようとしているのかも・・・  
生育歴や不適切な環境から多動になっている

**なぜそういう行動になっているかを見極める事が重要！**

# 具体的な支援方法

- (1) 環境設定の工夫  
構造化、子どもに適した環境や物
  
- (2) 関わり方の工夫  
①スモールステップ②行動変容、③ほめること
  
- OTが使う小技の紹介

# (1) 環境設定の工夫 ～構造化～

構造化



環境を整えて  
情報を整理して  
わかりやすく提  
示すること

いつ(When)-----時間の構造化

どこで(Where)----場所の構造化

何を(What)-----課題の構造化

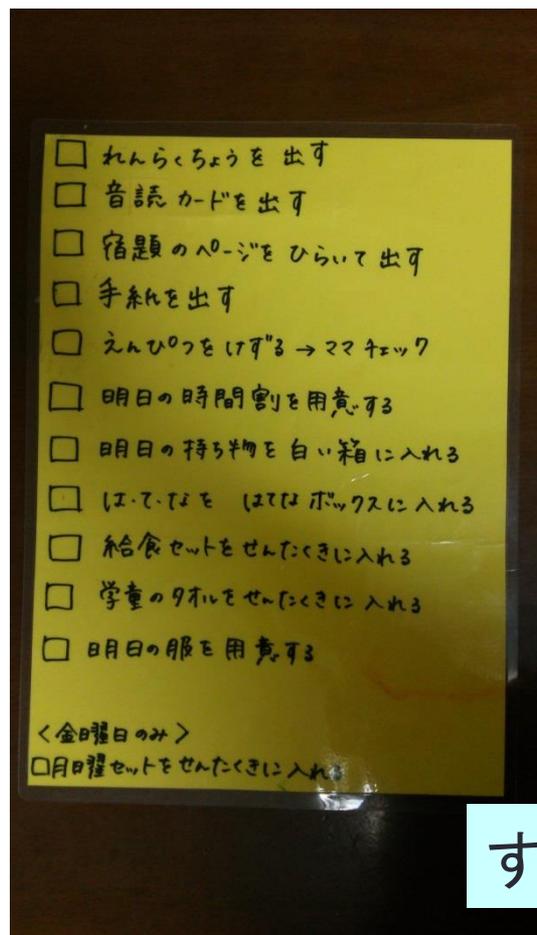
どのように(How)---方法の構造化

手段として『視覚化』  
(見える化)  
がよく取り入れられる。

# 家庭でできる構造化

- When**
- カレンダーがわかる子には予定・目印を書いておく
  - 時計に目印を貼る、タイマーを使う
- Where**
- 自分の持ち物は目印をつけて同じ収納場所に置く
  - おもちゃボックスに絵カードを貼っておく
  - テレビなどは気にならない場所に置く
  - お風呂上がりの着替えは脱衣所でする
- What**
- ホワイトボードに用意をするものを書いておく
- How**
- やる順序を絵カードにして貼る
  - やり方を絵カードにして貼る

## タンスに目印や写真を貼る



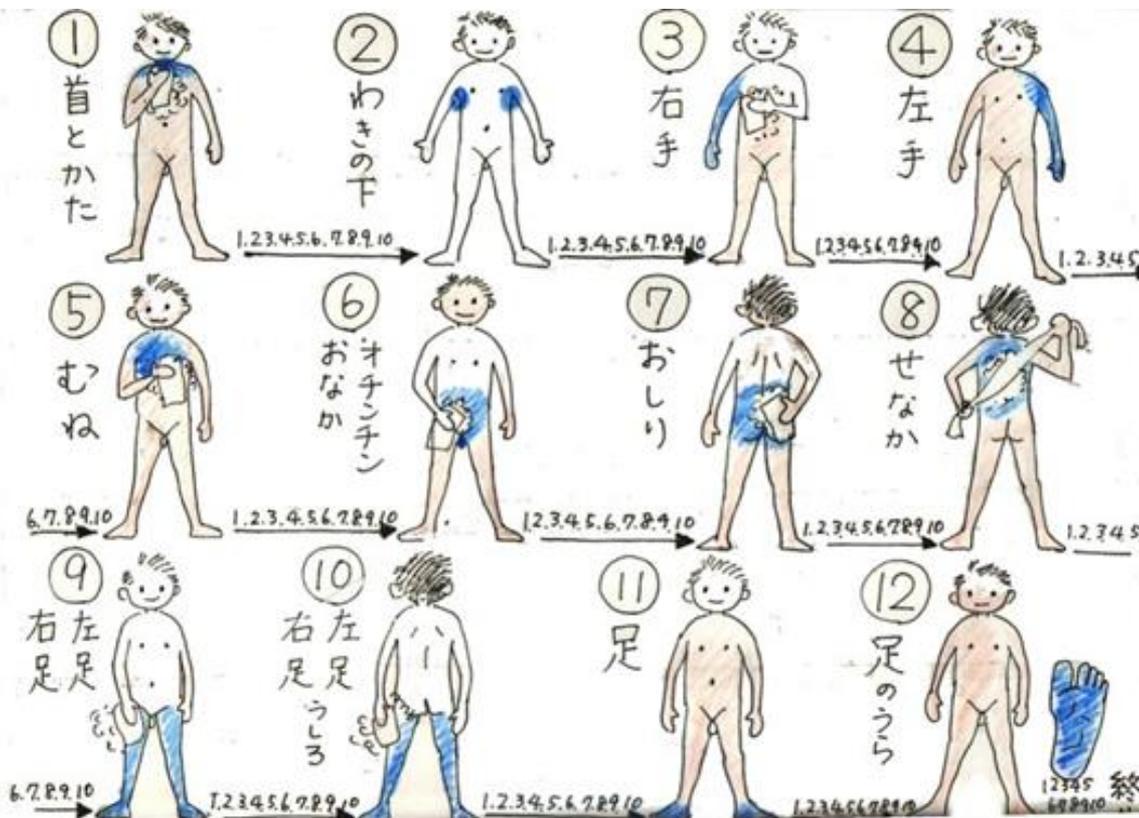
することを書いておく

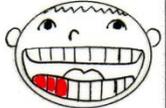
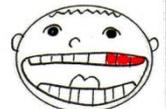
# 視覚的構造化の例

## 歯磨きの手順



## 洗体の手順



コップ みず	
ひだり した	
みぎ した	
ひだり うえ	
みぎ うえ	
まえ	
うがい	
おわり	

## (2) 関わり方の工夫①

スモール  
ステップ

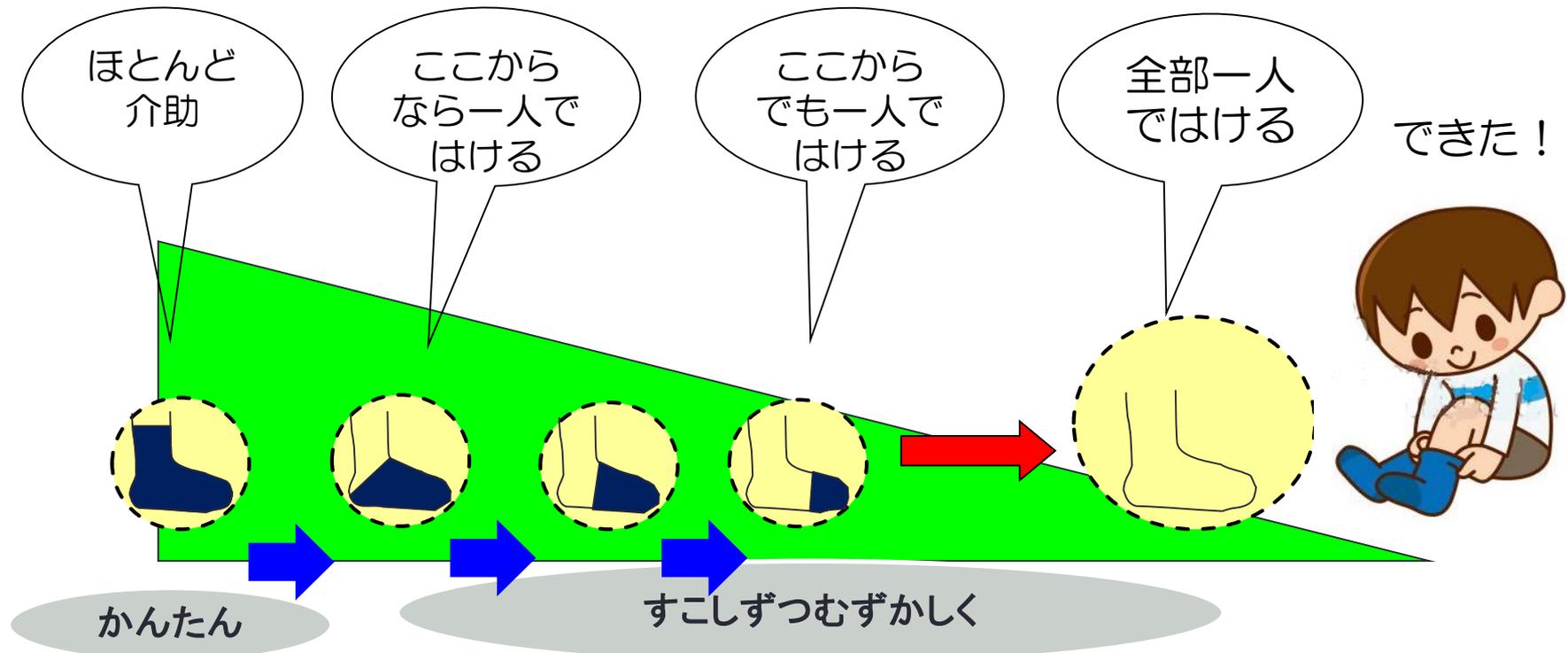


目標を小さく設定し、  
小さく積み上げる  
～ちりも積もれば・・・～

- 生活動作を細かく単位動作に分け
- 時間や場면을細かくする
- より容易な動作からする
- よりその子に近い発達段階から始める

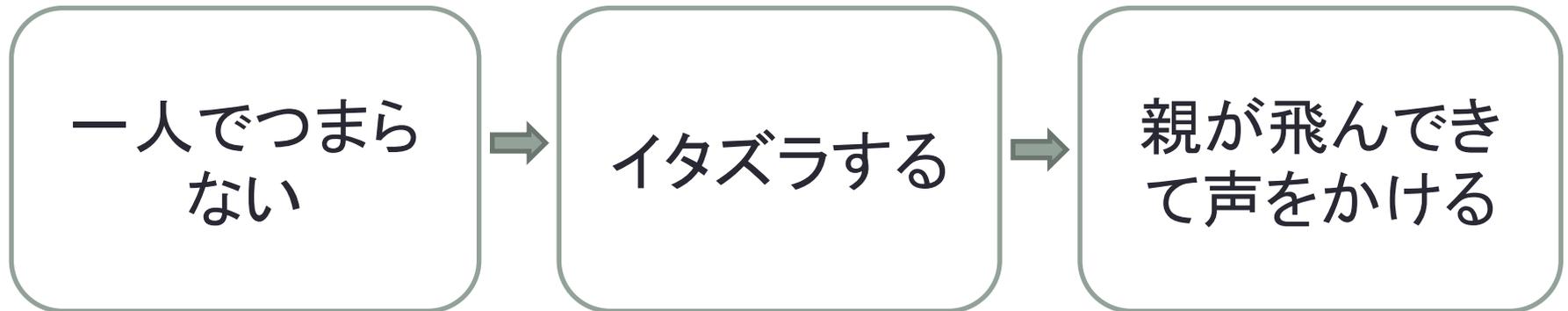
# スモールステップと 「背向法」の組み合わせ

いつでもゴールの達成感を味わって学ぶ





# わたしたちがよくやってしまうこと 「誤学習」の例

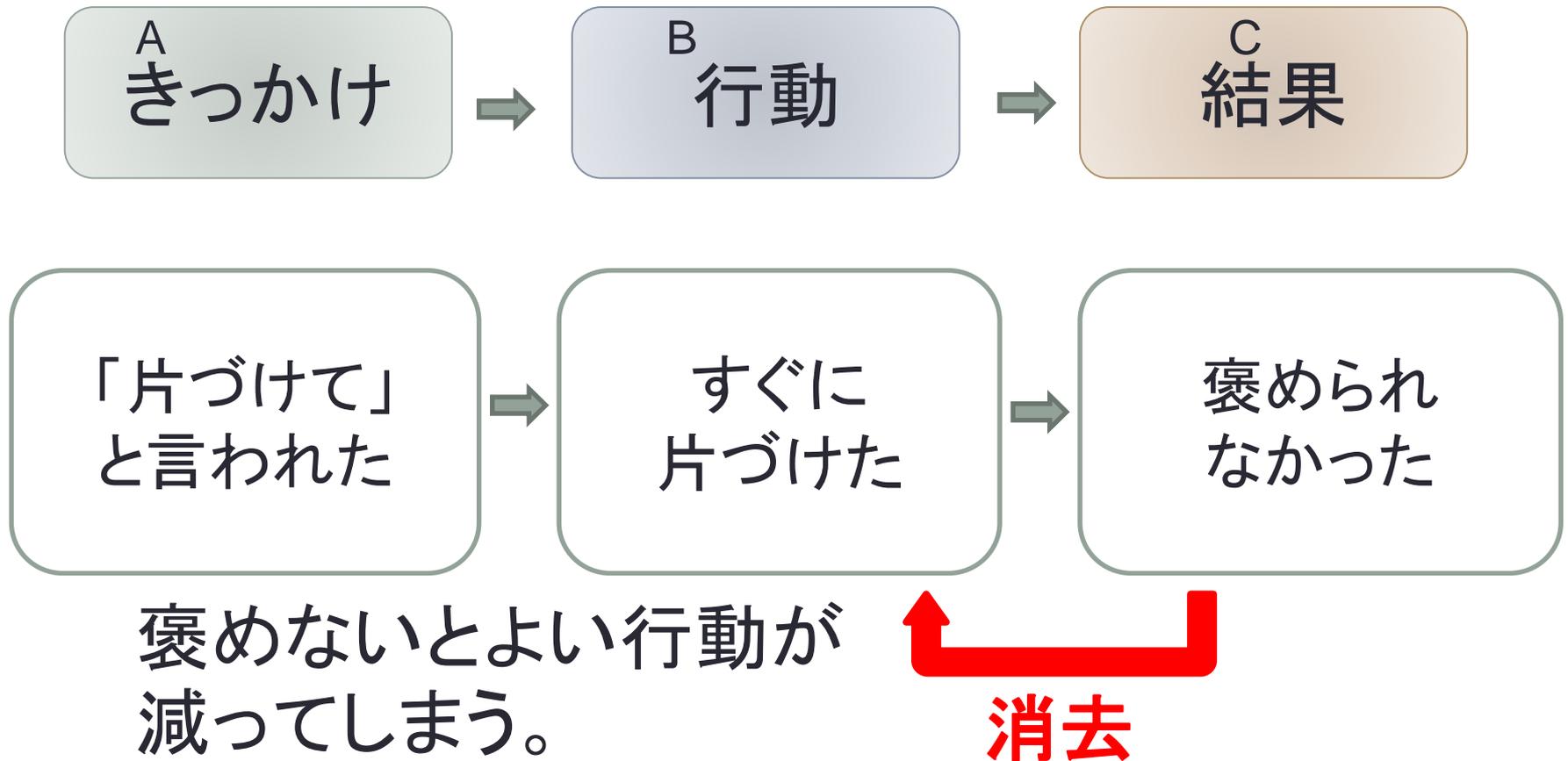


**↑**  
よくない強化

# 注目を取り去る対応＝無視

- 否定的な注目＝叱る事  
→かえって反抗的になり、どんどん悪循環に
- 良くない行動に対しては  
叱責より**注目を取り去る対応**  
**＝無視**する方が効果的

# わたしたちがよくやってしまうこと 「行動の消去」の例



# 先手必勝と後手必敗

子どもを  
理解する



行動を予測  
する



よい行動に  
つなげる



ほめて  
終わらせる



子どもを理解  
していない



行動が予測  
できていない



困った行動  
の出現



叱る



## (2)関わり方の工夫③

### 良い学習の決め手はほめる事

- 否定的な注目＝叱る

これをできるだけ減らして

- 肯定的な注目＝ほめる！

これを増やすこと

(子育ては悪い行動の引き算でなく  
良い行動の足し算)

# 上手なほめ方

ほめるところ  
探しが上手

ちよつとでも  
ほめる



微笑む

# OTが使う小技

## 【課題設定】

- ルーティンとチャレンジはその子の特性に合わせて
- その子の好きなキャラクターや遊びを聞いておく
- その子の特性やニーズに合わせてメニューを考える
- 目が合わない時は課題を自分と子どもの中に持ってくる
- やり方の見本を見せるときは同じ向きから

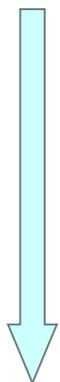
## 【指示の入れ方】

- 注目を促してから(声かけ、道具を見せるなど)指示する
- 指示をするときは目を合わせてから
- 指示は一つずつ

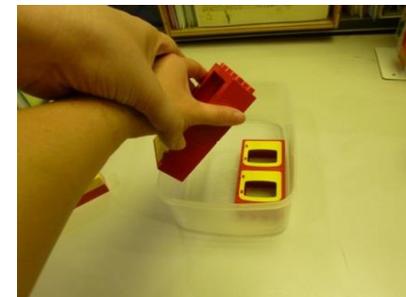
# OTが使う小技

## 【誘導の仕方】

フェイドアウトの方向



- \* 身体誘導
- \* モデリング(手本を模倣させる)
- \* 指さし(視線を対象に注目させる)
- \* 声かけ(シンプルに)



※徐々に手がかりを減らしてゆく(フェイディング)

# OTが使う小技

## 【見通しを持たせるために】

- 流れを作る
- ホワイトボードに番号を振ってカードややることを貼っておく
- これから使うものを並べておく(子どもによっては隠しておく)
- 行動の切り替えの前に先手の声かけ

## 【ほめ方】

- 褒めるタイミングは子どもに合わせて
- 静かに褒めるか大きめに褒めるかも子どもに合わせて

## 【ご家族に対して】

- よく見てもらい、時には役割を交代する
- 課題への参加

# ADL訓練の例（靴下を履く）

足で輪を入れる



輪を両手で持って足に入れる



ゴムの輪を両手で持って足に通す



足の指先を上手に動かして通す

# ADL訓練の例（ボタンのつけ外し）

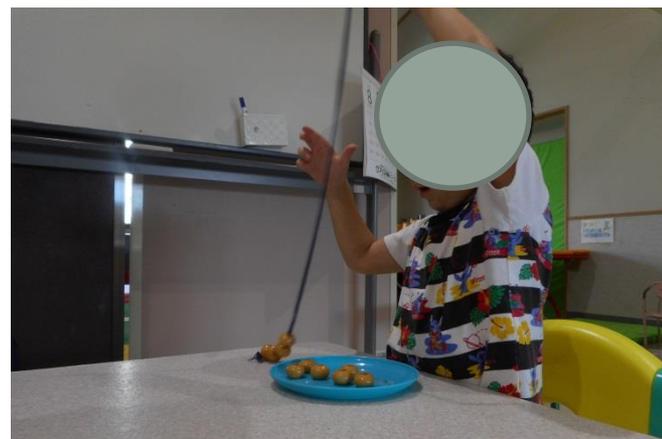
コインをつまみ手元を見て入れる



スリットの角度を変えて入れる



両手を使って通す



左右を持ち替えて通す

# ADL訓練の例（ボタンのつけ外し）

ダブルボタン、机の上で外す



ダブルボタン、着て留める



大き目のボタン、机の上で外す

また着て留めてみる  
そして外して脱ぐ

# 目次

1. はじめに
2. 特性のある子ども≡発達障害に関する知識のおさらい
3. 具体的支援
4. ライフステージの視点から見た支援のキーワード
5. まとめ

# 発達障害と乳幼児期のキーワード

- 情緒を育てる
- 体づくり
- 遊びの充実
- 身辺自立(食べる、更衣、排泄、生活リズム)
- 早期からの専門機関への相談と連携
- 家族サポート

# 発達障害と児童期のキーワード

- 学習意欲の維持
- 対人関係の基礎（コミュニケーションスキル）
- 身辺自立（基本的な生活習慣＋お手伝い活動）

# 発達障害と思春期のキーワード

- 仲間作り(ソーシャルスキル)
- 自分に対する意識
- 異性への意識と行動
- 進路問題
- 学校、関係機関との連携

# 発達障害と青年・成人期のキーワード

- 自己理解(アイデンティティ=自分は何者か?)
- 人付き合い(ソーシャルスキル)
- 異性との関わり
- 進学や職業選択
- 余暇活動
- 自立生活スキルの獲得

# 発達障害に関わる支援機関

## 乳幼児期

- 市町村保健センター・幼稚園・保育所
- 教育センター・市町村子育て支援課、家児相
- 児童発達支援センター・地域療育センター
- 児童発達デイサービス・医療機関・児童相談所

## 学齢期

- 小学校担任、特別支援コーディネーター、スクールカウンセラー・教育センター
- 児童発達支援センター
- 地域療育センター・放課後等デイサービス
- 医療機関(小児科、精神科)・児童相談所

## 青年期・ 成人期

- 市町村保健センター
- 医療機関(精神科)
- 障害者就労支援センター
- 障害学生支援室(大学)

# 目次

1. はじめに
2. 特性のある子どもと発達障害に関する知識のおさらい
3. 具体的支援
4. ライフステージの視点から見た支援のキーワード
5. **まとめ**

# まとめ～発達特性を持つ子どもの 支援で大切なこと～

- まず子どもの気持ちに寄り添い、子どもの特性を理解すること
- 子どもの未来に希望を持つこと
- 「人とのつながり」「成功体験」を軸に
- 手をつなぐこと(連携)

(本人をとりまく支援者同士、家族を中心に)

ご清聴ありがとうございました。

